

## 社会正義を実現する政治保障 社会正義に関する政治学の分析

### 民主：社会正義に関する実践的な政治的保障

### 民主における社会正義に関する価値的思考について

周 光輝\*・殷 冬水\*\*

#### はじめに

社会正義は社会主義の価値の追求における非常に重要な目標である。社会の正義は、社会関係の中において、人々が尊厳のある生活ができるかどうかということとかわっている。社会正義の実現には、政治的正義が必要である。「政治制度の中の非正義の結果は市場が完璧でないことによって深刻なものになり、その持続時間も長くなる」<sup>1</sup>。本稿の主な目的は、民主は政治的正義の実現の形式でもあれば、正義に適った社会を構築するための政治的保证でもあること、そして民主は、政治的正義の制度的配置として、社会正義の構成要素でもあれば社会正義を実現するための政治的仕組みでもあること、民主がなければ社会正義もなく、この意味において、民主は社会正義の命であることを証明するものである。

社会正義を実現するためには、政治的正義が必要である。民主は政治的正義が実現される際の形式である。民主の正義性は、民主が構築する政治秩序の合理性から生まれるのみならず、民主が確立する権力配分の基準および方式の受け入れ可能性からも生まれるのである。民主は政治正義を実現するための制度的配慮として、人類の歴史において初めて法律規定の形式によって、権力体系をすべての人に平等に開き、社会構成員の一人ひとりに権力獲得の機会を与え、人類に理性的な思考および自由な選択によって公民に責任を負う政府を作り上げさせたのである。

政治文明の難問というのは、権力が必要であるかどうかというものでなく、いかに権力を理解し、いかに権力を配分し、いかに平和的手段によって整然とした公共権力の交代を実現するかである。

民主の正義性は、まず、民主が構築する政治秩序の合理性から生まれるのである。民主的政治秩序が公共権力体系の開放性を保障し、すべての社会のメンバーに公共権力を獲得する機会を与

\* 吉林大学行政学院長・教授      \*\* 吉林大学行政学院政治学博士・講師

1 何懷宏他訳、(米)ロールズ『正義論』(中国社会科学出版社1997年版)216頁

える。すべての政府形態と同様に、民主もリーダーが必要であるが、他の政府形態と比べて民主政府が異なるのは、いかなる人も勝手にリーダーのポストから除外されないという点である。民主は必ずしも全員をリーダーにすることはないが、人はそれぞれ、自分がリーダーになることを信じているのである<sup>2</sup>。民主の政治的思考はアナーキズムの基本的主張を拒むことを基本とし、公共権力の誕生は人類文明の重要なしるしであることを信じ、公共権力は人類の秩序の普遍化の重要な条件であり、公共権力が提供する秩序は人類文明の存続を可能にする土台であるという考え方にもとづいている。民主は、人の自主性を尊敬し、自由を人が人であるしるしと看做しており、公民の同意（consent）を権力関係正当化の唯一の土台と見なしている。政治学の研究が示しているように、権力は1つの力（force）であり、分割可能な稀有な資源の一種でもある。権力は人と人の間の服従・支配という不平等な関係（relation）において存在している。民主はこの不公平な関係を変えるのではない。民主が変えようとしているのは、このような不平等な関係を形成する基本的な根拠なのである。民主は、不平等な関係を合理化・正当化し、その上で人類の文明秩序の土台となるものである。民主は人の平等性を尊重し、不平等な権力関係の自然性を否定する。民主の内的論理においては、人と人の関係は、本来、不平等なものであり、社会の中では、一部の人による他の一部の人に対する支配と制御は、必要ではあるが、理に適って当然というものではない。いかなる人も自分の同類に対して、いかなる自然本性的な権威を有さず、神意であろうと武力であろうと、不平等な権力関係を正当化することはできない。神意に従って構築した政治秩序は、人の属性たる自由を否定する政治秩序であり、武力に頼って構築した政治秩序は、人の尊厳を否定する政治秩序である。神意にしろ武力にしろ、それが、人にもたらすのは恐懼である。民主の文明性は、恐懼に頼って政治秩序を構築する方式を変え、公民を政治生活の恐懼の中から解放することを通じて具体的に現れるのである。民主は、現代の人々に、ただ恐懼によるだけでは文明的政治秩序を構築することはできず、公民の認可こそが政治秩序を構築するための堅固な土台であることを意識させたのである。民主の方式を通じて公共権力を合法化させることは、文明的であるのみならず、人性にも合致する。民主の政治的価値はまさに「強力を権力に転換するのであり、服従を義務に転換するのである」<sup>3</sup>。権力の支配・服従という関係は人類の社会全体の隅々まで浸透しているが、民主こそが、このような人と人との間の支配・服従という関係を周期的に交代させることができる。あらゆる政治秩序にとって、流動性はその生存能力を維持する上での基礎である。政治生活の中では、権力は大多数の人が獲得したいと希望する善である。人々が権力の獲得を希望するのは、権力が富の配分とかかわっているためであるだけではなく、権力が平等に配分することができないある種の善であるためでもある。アラン・ボトトンはその『身分の焦慮』の中で深みのある指摘をしている。人々が様々な身分によって焦慮を感

2 John H. Halliwell, *The Moral Foundation of Democracy*, The University of Chicago Press, 1954, P52

3 何兆武訳、(仏)ルソー『社会契約論』(商務印書館、1997年)12頁

じる。これは、人の自我の感覚は他人の目の中の価値と密接に関連しているためである。平等に配分することができない権力という善は、「人々に関心を喚起してかつ価値に富む感覚をもたらすのである」<sup>4</sup>。事実、人類の文明秩序に対する破壊の作用は、権力が平等に配分されているかどうかではなく、社会構成員が不平等な権力を共同享受する平等な機会を有するかどうかにかかっている。非常に大規模であり、かつ役割分担が明確にされ、公民生活が多元的である現代国家の中では、公共権力における所有権と使用権の分離は合理的なものであり、公共権力の不平等も正義に適ったものでありうる。民主主義社会の中では、たしかに公共権力は少数の人の手に握られており、少数の人のために行使されているとはいえ、この権力を掌握する少数の人は固定して変わらないのではなく、周期的に流動しているのである。民主の正義性はまさに周期的流動の方式を通じてすべての公民に不平等な権力を共同享受するための平等な機会を与えることを保証するということにある。民主の価値は政治体系の開放性と流動性を保証しているところにあるのみでなく、公共権力の交代の平和性を実現することにもある。権力は、大多数の人が獲得を希望している善である。人類の政治文明の生活における1つの難問は、いかに平和な方式によって公共権力の秩序を保ちつつ、規則的な交代を実現するかである。あらゆる政治体系にとって、権力は一定の範囲内においてすべて流動的なものになることができるが、民主的政治体制のみが、公共権力を持続的規則的で平和な交代によって実現させるのである。古今東西の歴史において、平和の方式ではなく、武力の方式によって政権の更迭を実現した事例は常に発生してきた。我々は、暴力の働きをすべて否定するのではなく、一定の歴史条件の下では、暴力革命は積極的な意義をもっていたことも認めるものである。しかし、人類の歴史が一再ならず教えているように、暴力の方式は巨大なマイナスの効果をもたらし、暴力の方式はしばしば長期間生産を停滞させ、資源を毀損し、人民を苦しめ、人類文明の成果に巨大な破壊作用を与えるのである。民主は人類が長い探索から形成した、公開的、定期的に選挙するという政治体制によって、公共権力を奪うために行う破壊的競争に代わり、公共権力の平和的で秩序のある交代を実現してきた。民主の真の力は、権力の掌握者の神秘性およびそれに由来する優越と距離感を取り除き、公民と権力の掌握者との間において、一種の平等で信頼しあう協力関係を構築し、さらに権力の掌握者と社会の公衆との間の互いの対応の方式を変え、二者間の関係を「恵む - 恵まれる」および「統治する - 統治される」という関係から、民主政治の中で相互に約束する「権利 - 義務」および協力の関係に変えたのである。

次に、民主の正義性は、権力配分の基準および方式も受け入れ可能性も維持しているところから生まれるのである。民主は、誰が公共権力を握るかということに関心をもちながら、公共権力を共有のものとすると同時に、少数の者が公共権力を行使するという事実を変えようとは思わな

4 陳広興他訳、(英)アラン・ボトトン『身分の焦慮』(上海訳文出版社、2007年)5頁

い。むしろ、民主は公共権力の不平等な配分を正義に適ったものとみる。民主の正義性は、公民の能力および政治的ポストに関係ある能力をそれに相応しい公共権力を獲得できるかどうかの基準と見なし、同時に選挙という方式によって権力の掌握者に公共権力を行使する正当なる権利を授与する。実際、公権力が少数の者によってしか行使され得ないという背景の下では、公共権力は平等に配分することができない。このような前提においては、いかなる政治体系もどのように公共権力を配分するかという問題に直面する。政治的正義が存在する根本的な目的は、まさに公共権力の配分可能性を検討することである。当然のことではあるが、人類は、公共権力を社会の中の有能な人に渡して行使させるべきであるという点については、意見が分かれてはいない。人類の幸せ（happiness）に対する理解と同じように、能力は、それ自身1つの相対的に主観化された概念である。人類にとって、能力のような主観化された概念が公共権力の配分において重要な役割を演じるためには、能力への理解を客観的なものとし、能力に対して評価を行う基準を作り上げなければならない。人類の政治文明化の過程は、その実質は、人類が公民の政治能力を評価する基準を絶えず反省・修正・淘汰していく過程である。民主は、出身、血縁、人種、性別および地域等の基準によって権力掌握者を選抜することに反対し、年齢、質素、学識、経験等を政治能力を評価する際の要素とすることに賛成する。如何なる人にとっても、出身は偶然的な事実であり、如何なる人も彼の出身を選んだり変えたりすることができない。出身によって、公共権力を配分することは、人の運命を偶然的な原因に任せて支配することである。人の政治能力はほとんど遺伝によっては獲得することができない。民主政治は、血縁によって公共権力を配分することに反対し、世襲制を非正義的な制度とみる。世襲制は遺伝上の困難に面しているのみならず、硬直した原則に基づいて常に変わりつつある環境に対応し、予め個人と全く関係のない基準によって人の運命を決定するのである。民主も、人種と性別等を基準にして公共権力を配分する事に反対する。人種と性別は自然的事実であり、選ぶことも変えることもできない。人種、性別と人の政治能力との間には、如何なる関連性も存在しないのである。生物学においても、社会学においても、いずれも男性が女性より聡明であることを証明できず、さらにこれによって女性が公共権力を掌握するための政治能力を持っていないことを推定することはできない。政治能力を構成するのは、個人の才能であり、人種と性別ではない。人種と性別に基づいて公共権力を配分することは正義に適ったものではない。民主の内的なロジックにおいては、年齢、質素、経験および学識等の要因は、まさに政治能力を構成する基本的な要素である。これらの要素は、理性的な公共権力を掌握するために必要であるのみならず、さらに重要なのは、これらの要素は、後天的な努力によって獲得・改変することができるということである。公共権力配分の角度から言えば、民主は正義の政治的形式である。これはその公共権力の配分基準の合理性を通じて現れるのみならず、公共権力の授与の方式によっても現れるのである。民主社会において、公共権力は公民が共同に所有しているものであり、大多数の政治的ポストの獲得者は選挙によって選出されるので

ある。民主は、少数の人が権力を配分する事に反対し、少数の人が秘密で無原則な方式によって権力の掌握者を任命することに反対する。民主社会の権力の掌握者は、選挙に勝つことを通じて政治的ポストを獲得しなければならない。

民主の正義性は、すべての公民に権力の掌握者を選抜し認可する平等な権利を賦与し、政治的ポストを、公民が認可しポストに相応しい政治的能力を有する人に授与するところに現れる。民主は、「「一般人」を信じ、彼らの生まれつきの知恵と実践的能力を信じるのである」<sup>5</sup>。公民の選挙を通じて、権力を委任された者の政治能力を確保できるのみならず、受託者が人民に対して責任を負うことも保証できる。

最後に、民主の正義性はそれが責任政府を追及するという方向性からも生まれるのである。民主は、政府が人民に対して責任を負うべきであるという観念を確立したのみならず、一連の制度的配置によってこの政治的観念の実現を推し進めてきた。政治的正義の実現のための制度的配置として、民主は、歴史上初めて人類に理性的な思考および自由な選択によって公民に責任を負う政府を作り上げさせたのである。社会正義の実現には公民に責任を負う政府が欠かせない。民主の政治的配置は、政府が人民に責任を負うことに可能性と現実性を与えたのである。近代社会において「人民主権」の理念が確立されて以来、人民に責任を負うことはすでに政府の良し悪しを評価するためのもっとも基本的な基準となっている。しかし、強制力を合法的に独占するとともにそれを拡張する傾向にある政府は、それに歯止めをかける制度的保障がないという条件の下では、積極的に人民に責任を負いつつ公共権力を行使することを行わないということは、政治生活の基本的事実であろう。人類の政治生活における難問は、どのように公共権力の平和で秩序のある交代を実現するかということにあるのみならず、いかに公共権力の掌握者に責任を持って公共権力を行使させるかということにもあるのである。民主は、政府が人民に責任を負うという観念を確立したのである。民主社会においては、政府が掌握している権力は人民から獲得しており、人民のために行使しているのである。政府の合法性は人民の同意と授權によるものである。政治の発展という角度から見て、人類文明の成長の過程は、人類が絶えず自分を解放するものである。そして、人類の解放は、政治上の表現として、人が人に対する従属関係および人間の間の不平等を変えようとしているということである。マルクスによれば、「世界と人間との関係を人間に戻すのである」<sup>6</sup>と。民主は政治近代化の産物として、實際上、まさに人類が政治的解放の要求に適合して創造した一種の新型の政治関係の形式である。民主政治においては、政府が公衆に責任を負うべきであるのは、民主が権力は人民から生まれるという原則を確立したためであるのみならず、もっと重要なのは、この種の原則の確立は、人類が政府に対する態度を変えたためである。つまり、政府は、利益を追求する企業と異なり、政府自身が富を創造することができな

5 余英時訳、(米)ボロ・クルーズ『世俗的人道主義を防衛せよ』

6 (独)マルクス(英)エンゲルス『マルクス・エンゲルス全集』第1巻(人民出版社、1956年)443頁

いのみならず、自身の利益を追求してはいけないという態度が生じたからである。これは、政府が「一種の保護および公正を提供しながら、税金を納める者に対して返報を行う組織である」<sup>7</sup>ことを意味している。つまり、政府は、1つの公共問題を解決し、公共の物品を提供し、公民の需要を満たして社会福祉を推し進める最大の組織であるのであり、社会の公衆に責任を負うことは、それが履行しなければならない義務であるためである。公民の権利が保障されている民主社会においては、公民の財産は神聖なもので、それを犯してはいけない。公民の納税は、一種の政治上の義務として、ある意味で公民の財産権に対して制限を構成している。「徴税は個人的自由への侵犯であり、徴税権は論理上は絶対的なものでなく、証明されて始めて成り立つのである」<sup>8</sup>。政府が公民に対して有する徴税権は、一種の強制性、無償性および固定性を帯びている権力として、正当なものと理解されるが、その根本的原因是、政府の徴税権は、その本質上、公民（委託人）が政府（代理人）に対して納める代理のためのコストであり、政府は、公民が支払った代理のコストを運用して公民の基本権利を保障するからである。公民にとって、納税は彼らの愛国心の具現であるのみならず、国民たる身分のしるしおよび果たすべき義務でもある。税収は、公民が政府の提供する公共サービスを受受するために支払わなければならない費用である。公民が積極的に国家に対して納税し、その自然的財産の一部を譲り渡すのは、自分の身体が他人の傷害を免れ、自分の労働の成果が他人による略奪を免れるためである。政府自身は富を創造することができない以上、公民と政府の関係は委託と代理の関係である以上、代理人としての政府は、委託人としての公民に対して責任を担う義務を有するのである。政府が国民に対して責任を負うことは、正当であるのみならず、理性にも合致するであろう。政府は、国民に責任を負って初めて、代わりに公民からの協力を得られ、そして政府自身の機能に合理的な、物的な保障の提供を受けるのである。公民に対して責任を負う政府は、公衆の需要を満たす政府である。公衆に対して責任を負う政府を作り上げるためには、民主が欠かせない。これは、民主の制度的配置が広く民意を集めて公共の需要を形成できるとともに、公共需要を政府に伝え、政府と公民との間の有効なコミュニケーションを実現するからであろう。民主政治の一連の制度的配置の中において、選挙は民主制度の核心であろう。選挙によって、政府の選出は合法性を獲得し、公共権力は、平和的実現および秩序のある交代を保障され、公民が秩序を保ちつつ合法的に政治に参加することに有効な仕組みを提供し、公民の公共需要と政府の責任との間に、ある種の親密な関係を制度化する可能性を提供することができたのである。民主政治は一種の良好な政治形式である。民主社会においては、公共権力を獲得した官吏は、公民に対して責任を持つという方式によってのみ政治の合法性を得られるのである。民主政治の期限付き制度的配置は、権力を握る者のマニフェストを実現することに時間的約束があることを意味し、この約束は政府が公民に責任を負うことの前提である。

7 励以平他訳、(米)ノース『西側世界の勃興』(華夏出版社、1999年)11頁

8 朱孔武『財政立憲主義研究』(法律出版社、2006年)178頁

民主社会の公民が、政府の官吏の政治上の運命の決定者であるのみならず、政府の公共財政の提供者及び支配者でもある。民主社会の政府が公衆に対して責任を負わなければならない一つの重要な原因は、公衆が政府の財布を握っており、政府の収支を取り決めていることである。今日の世界においては、「民主の唯一可能な解釈はまさに社会的素因が公共権力を制御することである」<sup>9</sup>。民主が、公民の自主的生活における内的要求を満たしているのみならず、公民に対する責任を負う政府の良好な期待をも満たしている。民主は、社会正義にとって不可欠な要素となっている。

社会の正義を実現するためには、民主が必要である。民主は社会の正義を促す重要な手段であり、民主は人類が創造した利益の表現と選好の集積したプログラムであり、このプログラムの正義に合致するものであり、公民に社会資源配分の結果に対する受け入れ可能性を有効に保証しているのである。

民主のプログラムにおける正義性は、まず広範な価値を内包するところに現れる。民主の道徳的基礎はまさに「人間の尊厳は普遍的で、無条件的なものである」<sup>10</sup>ことを信じるところにある。人は、内的な意味において互いに平等であり、すべての人が同様な倫理価値を有しているのである。民主制度の平等原則は、「すべての人は生まれながら、資質と能力等の点において同じである」と考えるのではなく、人と人との間には物質的意味および文化的意味において差異が存在していると理解し、個体の能力の差異を認めている。平等な原則は、人間がなにであるかではなく、人々がいかに他人に関係するかを説明し規範づけているものである<sup>11</sup>。人が内的に平等であれば、公民の身分は普遍的なものであり、すべての人に平等に与えるべきである。そして政治過程も開放的で包容的なものであるべきである。内的な平等原則は、公民の身分における差別を取り除き、公民身分上の配置の基準の合理性を見抜く上で、また公民身分の平等化および普遍化によって、十分重要的価値を有しているのである。民主は、人と人との間の差異性を否定しているのではない。民主が否定しているのはこの種の差異性（たとえば、性別、人種および皮膚の色等）と公民の権利との間の関連性である。民主のプログラムは、公民それぞれに普遍的で平等な政治権利を享有させ、「公民の身分は一種の公共善であり、すべての人に分け与えるものである」<sup>12</sup>ことを信じることである。民主のプログラムは政治生活の中の差別と排他性に反対する。民主国家は、普遍かつ平等である公民の身分をベースにして作り上げられたものである。国家は、公民の身分の普遍化と平等化を推し進めることを政治発展の1つの目標としている。普遍かつ平等な公民身分は、

9 Alain Touraine, *What is Democracy*, West view Press, 1997, P25

10 James S. Pieper, *Democracy, Equality and the Law*, a dissertation of the department of science Duke University, 1991, P5.

11 余英時訳、(米)ボロ・クルーズ『世俗的人道主義を防衛せよ』(東方出版社、1996年)35頁

12 Avishai Margalit, *the decent Society*, Harvard University Press, 1998, P157

民主政治の土台であり、まさにこの種の普遍かつ平等な公民の身分によって、民主は政治生活を日常的普遍的なものにした。明らかに、民主的政治秩序は、政治生活の中の差別を有害なものと思わずにとどまらず、非正義的なものと思わずのである。あらゆる人にとって、政治生活から排斥されることは、ある種の苦痛な経験である。政治生活から排斥されることによって損害を受けるのは、排斥された者それ自身のみならず、その者の尊厳も害を蒙る。周知のように、人間は等しく尊重されることを切望し、かつ尊厳ある者として尊重されることを切望する存在である。恥辱の感情を抱くのは人間にほかならない。普遍的公民の身分および公民の平等な政治生活への参加権を認めることは、人間の尊厳および人間が活着している上での意義と価値を認めることを意味しているのである。人と人が互いに信頼している世界、および公民が互いに交際する活動においては、公民という身分は十分重要な価値を有している。公民が享有する政治生活への参加権は、公民が自尊的に生活するための基礎である。あらゆる公民にとって、政治生活に参加する権利を獲得することは、他人からの尊敬を獲得して尊厳ある生活を送れるようになる可能性を手に入れることを意味している。実際、政治生活においては、公民の身分を剥奪する行為は、ある種の傷害・侮辱・蔑視の行為であり、剥奪される者が社会から蔑視され拒まれることを意味している。すべての人にとって、恥辱と蔑視はともに耐え難い罪悪であろう。恥辱は人を人として取り扱うことを拒むことを意味する。これによって傷つくのは人の自尊であり、恥辱を受けた者が自分と世界に対する信頼を失うことを招く。そして蔑視が脅かすのは、人の存在論的同一性である。人それぞれの自尊感を作り上げるものは、我々の自己自身への信頼であり、また政治共同体が我々に与える信頼である。自尊を獲得するためには、他人の承認および社会の信頼を必要とする。民主のプログラムは、社会の構成員の普遍的公民たる身分を承認する包容性のある政治のプログラムである。民主のプログラムは政治生活の公開性および、社会資源の共同的性質、および政治過程が社会資源に対して行った配分の受け入れ可能性を保証しており、政治的排斥が公民に与えた傷害を軽減するのである。

民主のプログラムの正義性は、それが有する包容性から現れるのみならず、公民に対する平等な対応においても現れるのである。民主のプログラムは、あらゆる公民に平等な政治権利を賦与し、公民が政治的選好を表現・交流・改変して集団の決議に影響をもたらすための平等な機会を公民に与えた。民主は一人一票の原則を堅持するのみならず、毎票同値という原則をも堅持する。まさにこの2つの原則は、民主のプログラムを形式的正義及び政治平等のための内的要求に合致させたのである。周知のように、選挙用紙は重要な価値を有している。選挙用紙は、公民が自分の政治上の選好を表現するための重要な担い手である。投票原則は民主政治の要であるのみならず、社会経済資源に関する不平等を矯正するための重要な手段でもある。民主政治においては、貧富・貴賤を問わず、人それぞれに一枚の選挙用紙しかない。まさにこの意味では、民主は政府の再配分の方式によって社会利益および社会負担を合理的に配分する仕組みである。民主のプロ



グラムでは「政府の政策決定に対する制御権はこのように配分されるのである。このために、選好に関しては、他のあらゆる公民の選好に比べてより大きな力を賦与される特定の公民は一人もいない」<sup>13</sup>。一人一票という原則は、民主のプログラムの下においてすべての公民の平等な関心および尊重を表現しているのである。このような関心と尊重は政治の正義と政治の平等の内的要求である。現代民主国家においては、「政治の平等原則は言うまでもなく、すべての人に、誰であるかを問わず、政治決定および政権に合法性を付与する同様な働きを発揮させるのである」<sup>14</sup>。政治の平等は根本的平等 (foundational equality) 人が生まれながら平等であることを信じており、人の命は価値的には平等なものである の内的要求であり、社会正義を実現するための重要な保証である。民主のプログラムはすべての公民を自由で・独立した・理性的な人間として扱う。これは、政治的平等の内的な要求を表しているのである。実際、政治領域においてもっとも深刻な問題は、公民が彼らの選好を表現する機会を持たないことに現れるのみならず、公民の選好が集団による政策決定において平等な尊重を得られないことにも現れるであろう。「もっとも明らかな政治的な不平等は、一人一票原則への侵犯であるかも知れぬ」<sup>15</sup>。一人一票という問題は、単に数字だけの問題でもなければ、憶測の産物でもない。それは人類が知識と情報の分散化および教育の大衆化に直面しているという背景において、理性的に選択して得た結果なのである。一人一票の原則は現代人の一人ひとりの公民の自治能力に対する自信を象徴しているのみならず、現代人は人が人であることにおいて尊厳を享有すべきである、ということへの信仰および人皆平等であることに対する透徹な理解をも含んでいる。

しかし、一人一票の原則によるのみでは、民主のプログラムが完全に正義を実現することは非常に困難である。民主のプログラムを正義の内的要求に合致させるためには、毎票同値の原則も堅持しなければならない。毎票同値の原則は、「一枚の選挙用紙は同等な重さを有すべきである」<sup>16</sup> こと、および一人ひとりの公民の選好は同等な重要性和影響力を有することを要求している。公民の選好に対しては、民主のプログラムは、一部の公民の選好が他の一部の公民の選好より優先されることをはじめから仮定していないのみならず、一種あるいはいくつかの種の選好が、他のいくつかの選好より優先されることも仮定していない。各種の提案に対して、民主のプログラムは、すべての提案が実践において一定の実行可能性を持つと仮定している。公共の決議がなされる前、すべての議案が同等な重要さをもっているのである。「すべての議案は勝利を獲得するための同等な機会を有する」<sup>17</sup>。公共の決議の形成のために、民主が採っている原則は多数決規則である。民主のプログラムにおける多数決規則は、公民に平等に対応するという内的要求を満たし

13 姚洋他訳、(米) トンス 『民主的経済理論』(上海世紀出版集団、2005年) 29頁

14 呂一民訳、(仏) ピエール・ロサンワロン 『公民の戴冠式』(上海世紀出版集団、2005年) 1頁

15 何懷宏他訳、(米) ロールズ 『正義論』(中国社会科学出版社、1997年) 221頁

16 李柏光他訳、(米) ロベルト・ダール 『論民主』(商務印書館、1999年) 104頁

17 William N. Nelson, *On Justifying Democracy*, Routledge & Kegan Paul, 1980, P19

ている。民主の集団決議においては、多数決は普通、正義に適ったものであり、受け入れ可能なものと理解されている。これは、人々が満場一致の実現は困難でコストが高いことを信じているためであろう。他方、一人または、少数の人による政策決定は節約的で効率の高いものでありうるが、このような政策決定の方式がもたらす社会的危険は巨大なものであると信じているからである。民主のプログラムの多数決規則は人類が長い政治的实践を通じて理性的に選択した産物であり、この政策決定の規則は政策決定のコスト・効率・危険の有機的な統一を実現した。実際、民主のプログラムにおいては、多数決規則は、保護機能を持つものであるとともに機会均等の原理に適ったものである。民主のプログラムは、すべての公民を平等にあつかうプログラムである。民主のプログラムの中の少数と多数は、固定して変わらないものではなく、互いに転換しうるものである。「すべての公民は機会に応じて多数者の中の一員になりうるから、彼らの中の多数、あるいは、彼らすべては喜んでこの多数者の決定を受け入れる。彼らは、この原則は自らを差別するものと感じることはないであろう」<sup>18</sup>。

民主のプログラムの正義性は、民主の政策決定のプロセスの自主性および開放性においても現れる。民主の理想は人類の美しい願望から生まれる。すなわち、公民は自主的な決定を通じて公共事務を共同で処理することができる。「民主制度の下で将来の行動を決定するのは、その人民であり、それを構成する人々である。従って、彼らは自分の運命をしっかりと握っている。民主が強大で魅惑的なものであるのは、それは、それが一種の自治的観念であるからである。つまり、個人の自由な選択によるものである」<sup>19</sup>。民主のプログラムの正義性は、その公民の自主性に対する尊重および制度上の保障から生まれる。民主のプログラムにおいては、公民は自主的である。これは、まず、公民は自由にその政治上の選好を表現することができることを意味し、また、政府またはその他の社会的力からの懲罰の心配の必要がないことをも意味している。民主のプログラムにおいては、公民は自主的である。これは、公民の選好が真摯なものであることを意味している。公民に自由かつ真摯に政治の選好を表現させるためには、公民の内的自覚に頼るのみならず、優れた制度的デザインも要求される。しかし、人類の歴史において、人と人との間の寛容の欠如は、確かに普遍的に存在している事実であろう。すべての人は寛容を持っているけれども、それは限度を持つものであった。それゆえ、多元的な政治上の選好を真摯に表現することが非常に貴重なものとなったのであり、多元的な政治上の選好が調和・共存して一定の共通なる認識となることが非常に困難になったのである。「現代民主においては、主要な選挙も公民の投票も秘密投票によって行われる。このモデルの背後に潜んでいる公理は、公民は、如何なる脅迫もない状況の下ではじめて採決権を行使することができるということである」<sup>20</sup>。公開投票と違って、秘

18 孫榮飛訳、(英) アントニー・アブラスト『民主』(吉林人民出版社、2005年) 100頁

19 林猛他訳、(英) ジョン・トーン『民主の歷程』(吉林人民出版社、1999年) 2頁

20 丁振寰他訳、(米) ティモール・クラン『好み偽装の社会的悪い結果』(長春出版社、2005年) 12頁

秘密投票が保障しているのは投票者の自由と真摯であり、取り除かれたのは投票者の恐懼および虚偽である。また、秘密投票が保障しているのは、民主の政治過程の公正性であり、秘密投票が防いでいるのは、投票者の自己主張を保全しようとする意識から生じる、集団の圧力と大勢順応の心理がもたらす政治上の選好の偽装である。民主政治の発展のプロセスにおいては、人々は、公開投票が秘密投票に比べてコストが低く、スピードが速いことを認めている。さらに、公開投票が彼らの代表を監督する力があることをも認めている。しかし、公開投票は、公民の政治上の選好に対する偽装をもたらすことは避けられない。これは、投票の結果を歪曲し、公民の真摯性および民主のプログラムの公正性を傷つけるのである。秘密投票は、投票者に自分の観点を表出させ、社会への順応に代わって自己の判断を追求させるのである。「秘密投票は人々に非常に尊重されており、非民主的な政権すら事実上の公開投票を秘密投票のように見せかけようとする」<sup>21</sup>。しかしながら民主の政策決定過程の自主性と開放性は政策決定の結果に不確定性をもたらした。しかし政策決定の非先定性は、しばしば民主が真偽であるかどうかを区別する重要なしるしである。政策決定結果の不確定性は、公民が真摯にその選好を表現するための積極性を推し進め、民主のプログラムの秩序のある運用を維持するのである。民主のプログラムにおいて達成された政策決定は、公民の多元的な選好が集められた結果であり、理性ある公民が共同で選好の変化について協議した結果である。この結果は先定的なものではなく、自由・平等な公民が公共な検討を通じて発見したものである。民主は、社会正義を理想として追求しているとはいえ、民主の理想である社会正義の実現はやすやすと成功するものではなく、無限に近づくことしかできないという点も深く認識されるべきである。実際、「民主政治において、すべての目的は一時的なものにすぎない」<sup>22</sup>。すべての政策決定は開放的で修正可能である。民主の「政治生活においても、ほとんどの生活実践と同じように、政策決定の過程と決定に必要とされる理解力は完璧なものではない。従って、我々は今日の政策決定が明日でもなお正確であることを保証することができない。たとえある時点に非常に合理的な政策決定であっても、それは新たな証拠の出現につれてそれほど説得力を持たないものになるかもしれない」<sup>23</sup>。

民主のプログラムは、正義の政治プログラムである。民主は、社会正義を実現するための前提である。積極的な角度から言うと、民主は社会正義を促す手段である。消極的な角度から言うと、民主は不義に対して不公平を修復するための有効な政治的仕組みである。民主は、社会の不公平を自由に公表し、それに対して社会の広範な関心をかきたてる。民主社会の司法救済制度は、社

21 丁振寰他訳、(米)ティモール・クラン『好み偽装の社会的悪い結果』(長春出版社、2005年)13頁

22 緒松燕訳、(米)『正義の諸領域』(訳林出版社、2002年)414頁

23 マルクス・エンゲルス『マルクス・エンゲルス選集』(第2巻)(人民出版社、1995年)414頁

会の不公平に動態的な修復をもたらし、社会の不公平の政治化および普遍化を防止するのである。同時に、権力の平和的な交代を実現する仕組みとして、民主社会の任期制は、権力掌握者の周期的更迭を実現できるのみならず、権力掌握者の更迭の過程における公共政策の段階的調整も実現し、社会の不公平に適切な修正を与える。民主は徹底的に社会の不公平を取り除くことができない。とはいえ、民主は社会の不公平、あるいは社会の差別が恒久化しないようにすることができ、そして社会の不公平によって生み出される犯罪、暴力衝突及び社会の不安定の発生を減少させる。

社会正義は、一種の社会利益と社会負担の、道理に適った配分に関する理想として、人々のここに根ざしている。あらゆる社会にとって、社会の不公平は社会が秩序を失う重要な要因であるから、修正が必要であろう。社会の不公平は人間の無原則・無定見な行為を助長し、人と人との間の信頼感を弱め、公民の政治共同体に対する帰属意識を低める。社会の不公平は犯罪の源であろう。マルクスが指摘しているように、「社会秩序を蔑視することの、もっとも明らかで極端な具現はまさに犯罪である」<sup>24</sup>。社会の不公平は、一部の社会の構成員を物的に貧しくさせ、生活の質を低下させ、競争において劣勢に置き、彼らに自分たちが社会から差別・排斥・追放・侮辱されていると感じさせる。これは言うまでもなく、彼らの政府に対する失望および社会に対する不満を激化する。そして犯罪は、しばしば彼らがこの不満を社会に伝えるための方式となっている。社会の不公平は、また暴力的衝突の源であろう。社会における富の配分の不公平は、必ず社会の分裂をもたらすのであり、社会的な共同体の相互の疎隔および相互の敵対を生み出し、さらに異なる社会的な共同体の間の暴力的衝突をもたらす。社会の不公平は社会的騒乱の源であろう。社会の不公平は一部の社会の構成員に価値の剥奪感、挫折感、痛恨および疎遠感をもたらし、「社会の不公平の上に作り上げられた社会は長く続くものではない」<sup>25</sup>。まさに、社会の不公平という社会的危険性は、人類に、社会的公正が生活にとって不可欠であることを自覚させ、「社会正義は偉大なる社会を作り上げる」<sup>26</sup>ことを信じさせたのである。

民主は社会の不公正を修復するための重要な仕組みである。民主は社会の不公平を自由に公表・伝達することを可能にする。周知のように、民主社会は公民の表現の自由のある種の権利を十分に保護する社会であり、表現の自由の権利を尊重・保護しているかどうかは、民主社会と専制社会を区別する重要なしるしとなっている。「政治問題に関する公共意識の形成過程においては、表現の自由は重要な働きをするのである」<sup>27</sup>。表現の自由は、政治の真理を発見・伝播し、社会文明の進歩を促す。表現の自由は、精神的自由を論理的に展開したものであり、民主社会の他の自由の基盤でもある。「内心の思想や信仰は、外部に表現し、他人に伝えてはじめて、社会的

24 マルクス・エンゲルス『マルクス・エンゲルス選集』（第2巻）（人民出版社、1995年）414頁

25 張兆麟他訳、（米）ジョー・オ・ホツラー『ユートピア思想史』（商務印諸館、1980年）13頁

26 張国清訳、（米）ロナウド・ドウオキン『原則問題』（江蘇人民出版社、2005年）277頁

27 Eric Barendt, *Freedom of Speech*, Clarendon Press, 1985, P20

な役割を発揮しうるのである<sup>28</sup>。表現の自由は、極めて重要な公民権であり、民主社会が秩序を保つための重要な条件である。民主政治は、民意を基礎にしており、民意の形成は公民の表現の自由に依拠している。「民治政府の基礎は、人々がそれぞれ自由に話す権利を有し・・・拘束されず検閲を受けずに意見を発表することである<sup>29</sup>」。民主の偉大なところは、公民に「彼らの自由の意思に基づいて生活あるいは政治における良し悪しを判断させ」<sup>30</sup>、公民に、公共的理性の原則に従って十分に自分の要求および信念を伝えさせるのである。「公衆生活においては、公民が自分の要求および信念を十分に表現しなければ、民主は不可能である」<sup>31</sup>。表現の自由は民主が自治の理想を追求する際の現れであり、また社会の罪悪と社会の非正義を暴く有効な方途でもある。「それは、政治責任を確保し、政府の腐敗を一掃し、権利の濫用を暴き、官吏および公衆以外の専門家に意見および批評を求めることを通じて政策決定の質を高める」<sup>32</sup>。民主社会の公民が享有する自由権は、民主社会の暗い隅を照らす権利であり、公民の視野を広げて公民の能力を引き上げながら民主政治を健全に機能させる権利である。民主社会において、公民の表現の自由の権利は、普遍的に尊重され法律の有効な保障を受けており、そうした権利によって公民は、公共の領域において自身が受けた不公正な対応を提示する勇気を持ち、公共のメディアを通じて自分が不公正な対応に遭遇したことを述べ、社会に対して自分が不公正な扱いを受けた理由についてはっきりさせる機会を有するのである。民主社会の公民は、同胞の立場に立って社会の不公平が同胞にもたらした恥辱および傷害を分担し、すべての社会の構成員と共同して社会の不公正を緩和し、ひいてはその解消のために行動し、そして政府が社会の不公正に対処するための努力を促すことができる。民主社会は、公民に、政府が社会の不公正を修復することを信じさせる。民主社会の公民は、他の社会の公民のように、国民と政府の無関心によって社会の不公正が修復されずに、無力感と幻滅感および絶望感を生み出すような状況には陥らない。ここで注意すべきは、表現の自由の民主社会における重要性を強調するのは、表現の自由の絶対性を唱導するものではないということである。表現の自由は重要ではあるが、限界もある。如何なるときにおいても、如何なる社会においても、権利はある種の相対的な主張であって絶対的な主張ではない。「権利が絶対的なものであることを固持することは、ある種の権利への過度の保護を導き、他のより重要な権利主張を損害するかもしれない」<sup>33</sup>。表現の自由は限定的な公民権であり、如何なる人に対しても権利、人身、財産、名誉を傷つけないこと、および公共秩序を危険にさらさないことを前提にしなければならない。

28 林来梵他訳、(日) 芦部信喜『憲法』(第3版)(北京大学出版社、2006年)152頁

29 譚君久訳、(米) ジェームス・M・ボンス他『アメリカ式民主』(中国社会科学出版社、1

30 劉麗君他訳、(米) ロナウド・ドウオキン『自由の法』(上海人民出版社、2001年)283頁

31 中国社会科学雑誌社編『民主に再思考』(社会科学文献出版社、2000年)19頁

32 畢競悦訳、(米) ホルムス、サンスタン『権利のコスト』(北京大学出版社、2004年)77頁

33 畢競悦訳、(米) ホルムス、サンスタン『権利のコスト』(北京大学出版社、2004年)69頁

民主は、社会の不公平を修復する重要な仕組みであり、民主社会の司法的救済制度は社会の不公平を動態的に修復することができる。民主社会は法治の社会であり、独立した司法権を運用することによって社会の不公平を是正する。他の社会と同様に、民主社会は資源の希少性という難問に直面しているのみならず、情報の非完備性および非対称性といった難問にも直面している。資源の希少性と人間の欲望の無限性は、人と人との間の競争および衝突をもたらし、情報の非完備性と非対称性は、人間の無原則性および無定見性を助長する。従って、民主社会においても、社会の不公平が現れうるのである。民主社会においても、人が人に対して行う傷害、および公民の権利に対する侵害が存在しており、これらの傷害および侵害は、非正義的であるとともに、人類の文明生活の内的要求にも背くのである。これらの傷害および侵害は公民と公民との間において起きるのみならず、国家機関と公民との間においても起きるのである。「多数の人は少数の人の利益を害するかもしれず、不公平に、ひいては専制的に行動するかもしれない」<sup>34</sup>。民主社会の立法機関は非正義的な法律を採択し、民主社会の執行機関は公共事務を処理する過程において公民に対して傷害を与えるかもしれない。「我々は、多数決の規則は政治の最も公平で、妥当な決定プログラムだと思うかもしれない。が、多数の人はときどき、または、しばしば個人の権利問題に対して正義に反する決定を下すのである」<sup>35</sup>。民主社会は独立した司法権によって社会関係の中の非正義の現象を是正・減少させ、公共の交際において生じうる傷害・侵害の行為を禁止し、侵害を犯したものに相応しい懲罰を受けさせ、被害者に相応しい補償を得させるのである。正義に適った社会を作り上げる過程においては、修復性正義（restorative justice）は、必要であるのみならず、極めて重要なものである。人間は自分を天使に変えることができず、人と人との間の傷害を徹底的に取り除くことも不可能であろう。正義に適った社会を実現するためには、社会の不義の発生を防止しなければならないのみならず、社会においてすでに起きている不義の行為に対して出来るかぎり早期の修復がなされなければならない。実際、人類社会が正義の社会に突き進むということは、おもに絶えず社会の不義を修復するという方式を通じて実現できるのである。民主社会は、独立で公正な司法権によって、不正義の修復を実現する機能を分担している。司法権は、立法権および行政権に続く第三の国家権力である。司法権は公共的救済を実施する修復性権力である。司法権が存在する主要な目的は、脅威・制限・剥奪された権利に対して法律上の救済を提供することである。司法権は立法権に対して制限を加えており、司法機関は司法審査権を用いて、立法機関が採択した非正義の法律を是正できる。また、司法権は行政権に対しても拘束を加えており、行政権が公民権を犯したときは、公民は適当な補償を受けられる。司法権はさらに公民と公民との間の紛争を解決する権力でもあり、司法権を用いて、侵犯者は懲罰を受け、被害者は適当な補償を受けるのである。司法権は、主に懲罰および賠償の提供等の方式によって

34 Robert A. Dahl, *A preface to Economic Democracy*, Polity Press, 1995, P18

35 李常青訳、(米)ドウォキン『法律帝国』(中国百科全書出版社、1996年)159頁

社会の不義を修復する。公正な司法権は、「(責任の)赦免のような行動の実施を妨げ、悪を犯したものに自分の罪責への少なくとも一定の代償を負うようにさせ、苦痛を蒙った被害者(生存者)に、特定の方式によって補償又は賠償を得させるべきであろう<sup>36)</sup>」。公開的な司法裁判において、侵犯者は罪を自白して、それに相応しい懲罰を受け、被害者は物的・象徴的な資源の補償を受ける。民主社会における公正な司法権は、侵犯者が陳謝することへの可能性を提供しているとともに、被害者が侵犯者を寛恕することにも可能性を提供している。これによって、不正義な行為の修復と公共関係の和解の必要条件を作り上げた。司法権は動態的で制度化された権力である。人類社会にとって、司法権が存在する意義は、主に社会の不正義を動態的な修復の中に置きながら、社会の不正義の政治化と拡大を防止するということであろう。

民主は社会の不正義を修復する重要な仕組みである。民主社会は任期によって社会の不正義を段階的に調整する。民主は平和を志向する政治である、民主は権力の平和的な交代を実現しているのみならず、公共政策の調整可能性も実現しており、公共政策に対する調整の漸進性および周期性を保証している。周知のように、政府は公共政策の決定者でもあれば、執行者でもある。公共政策は社会の構成員の利益に重要な影響を与えており、政府はしばしば公共政策を利用して社会利益に関する衝突を調節・制御する。政府は公共政策を利用して一部の人の利益を保護するとともに、他の一部の人の利益を抑制する。異なる公共政策は、異なる政治効果を生じ、異なる社会の構成員の生活の将来に影響を与える。民主は公民参加を強調するという方式によって、公正な選好を集約するプログラムを作成し、それによって、公共政策への説明義務、および公正を保証する。しかし、多元的な現代社会においては、異なる公民は異なる利益、および全く異なる選好を持っており、すべての公民の内的需要を完全に満たすことは不可能であり、すべての公民の利益に平等に対応することはさらに不可能であろう。実際、民主社会においては、政府が決定した公共政策は、しばしば政治的リーダーの政治上の立場および政治上の選好に影響される。民主社会は、政治的リーダーが持っている政治上の選好の合理性および正当性を否定しているのではなく、むしろ政治的リーダーが掌握している権力の譲渡不能という性質および政治的リーダーが決定した公共政策の更改不能という性質を否定しているのである。民主社会が、周期的な政治的リーダーの更迭という方式によって政府に公共政策を適時に調整・完備させ、「絶えずそれを経済、技術、そして社会の変革に適応させていく<sup>37)</sup>」。民主社会は政治的リーダーの周期的更迭を実現する。民主社会の中では、職務を担当する個人の回数は必ず期限付きのもでなければならない。政治的リーダーの任期に制限を加えなければ、選挙制度はそのあるべき働きを失ってしまうのである。民主社会は任期制をによって社会の安定と活力を維持し、政府の公共政策の段階的調整を実現し、社会利益と社会負担の不合理な配分も是正することができる。民主社会の競争的選挙に

36 劉成澤訳、(英) アンドル・レックピ『暴力の後の正義と和解』(訳林出版社、2003年) 6頁

37 鞠安方他訳、(米) トマス・R・ダイー『上から下への政策制定』(中国人民出版社、2002年) 3頁

においては、異なる候補者は異なる立場を有し、異なる社会集団の利益を代表し、異なる政治上の選好を持っている。民主社会の選挙の過程は、政治的リーダーを選び出すプロセスであるのみならず、異なる政策上の選好が互いに競い合うプロセスでもある。実際、政治的リーダーを選び出すプロセスは、異なる政策の間で選択を行うプロセスであろう。民主政治の任期制の根本的な目的は、政府の公共政策の調整可能性を維持し、社会の不公正に段階的修復を加える可能性を保証することであろう。民主政治の任期制は、終身制が持つある種の合理性を否定する。終身制の制度配置は、社会の安定にとって有害であるのみならず、社会の不公正の修復にとっても不利であろう。終身制の制度的配置の下では、公共政策は周期的調整を受けることができず、社会の一部の構成員の利益が尊重されず、不公正な政策の支配および奴隷のような酷使が生じることになってしまう。

要するに、民主は平和的で動的な社会の不公正を修復する政治的仕組みであり、政策の微調整のための仕組みでもある。民主は、社会が長く安定するための制度的保障である。しかし、民主は社会の不公正を修復することの重要性を強調するとはいえ、民主自身が限界を持つものであることを否定することはできない。民主は、すべての政府における不義の行為に対して適切な保証を与えることができず、さらに政府が社会の不義に対して行った修復はすべて正義に適ったものであることもできないし、公民を満足させるものであることもできない。民主が保証できるのは、以下の点である。すなわち、政府は社会の不義に対する冷淡な態度を長く維持できることはできないこと、社会の不義に関する無関心は平和な方式によって変革されることである。民主政治の1つの偉大な貢献は、民主は、社会の公民に政府が社会の不公平を修復できることを信じさせ、社会の不義の平和的修復に対して自信を与える。従って、今日においては、民主は、人類の英知がもたらした1つ発明であり、人類が社会公正を実現するための優れた政治的配慮である。「人類は、人民の民主を通じてさらに豊かで満足できる生活を作り上げることができるのである<sup>38)</sup>」。

(社会文化科学研究科、比較社会文化学専攻、比較国際法政講座、殷駿訳)

38 李振広訳、(米)ウェブ『自治、アメリカ民主の文化史』(商務印書館、2006年)15頁